

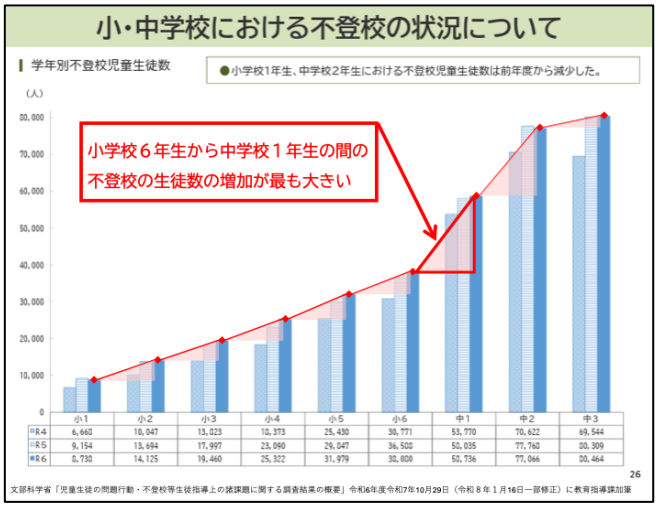
小中一貫教育は その子らしい成長を支える仕組みです

「中１ギャップ」とは？

この時期のこどもたちは、自分を取り巻く環境の急激な変化や思春期の重なりなどから、強い不安やストレスを生じる傾向にあります。これが、いわゆる「中１ギャップ」です。全国には、こうした状況に直面しているこどもたち多くいるという調査結果もあります。

急激な環境の変化

- 新しい生活、新しい先生、新しい校舎、そして自分で判断して行動する場面が急増し、大人でいう「引越し」や「部署の異動」のようなストレスがかかります。



急激な変化などによる「不安」や「ストレス」



急に朝起きられなくなる



勉強に自信がなくなる



人を避けるようになる

ゆるやかなつながりでこどもを支える 小中一貫教育



安心できる仲間と新しいステップへ

小学校

中学校

９年間で見守る「その子らしい成長」

- こどもの「安心」をベースにした９年間の成長のステップ

先生たちの緊密な連携

- 「効果的な支援方法」や「個性を活かす言葉かけ」などの情報共有

中学校が「身近な場所」

- 乗り入れ授業や交流活動等による、学校生活の「段差」の解消

小中一貫教育でどうかわるの？

Q：こどもにとって、小中一貫教育の一番の安心感は何ですか

A：小中学校の先生がこども一人ひとりの個性に応じた「効果的な支援方法」や「個性を活かす言葉かけ」などを共有することで、入学前からの情報を共有しやすくなります。物理的に近いことは、緊密で持続可能な連携を実現します。





Q：こどもたちの「自立」や「成長」には、どのような影響がありますか

A：幼い頃優しくしてもらった記憶がある子は、自分が上級生になったとき、自然と下級生に優しくできます。「自身が受けてきた上級生の優しさを、次の世代へ返す」というサイクルが循環し、思いやりのある自立した年長者へと育っていきます。

Q：地域にとって、小中一貫教育がもたらす最大の価値は何ですか

A：「このまちで育ってよかった、この街に恩返しをしたい」と思う若者が育ちます。地域の人たちに「名前を呼ばれ、見守られて」育ったこどもたちは、「このまちを大切にしよう」と、未来を支えるかけがえのない人材として育っていきます。





Q：学校行事は、小中合同で行うのですか

A：各小中学校が教育課程を編成していく中でその在り方を検討していきます。同じ敷地内に学校があることで、小学生のかわいらしい姿と、中学生の頼もしい姿が見やすくなるのは、こどもたちにとっても、良い刺激をもたらします。